

第14回仙台城跡保存活用計画等検討委員会

- I. 開催日時 令和3年2月3日(水) 18時00分～20時00分
- II. 開催場所 仙台市役所上杉分庁舎12階 教育局第1会議室
- III. 出席者 (委員) 北野 博司・菊池 慶子・稲葉 雅子・小齋 憲博・
今野 薫・庄司 弘美・馬場 たまき・藤澤 敦・
山田 淳
(宮城県) 関口重樹(教育庁文化財課 技術主幹)
(事務局) **【教育局】**
生涯学習部長 筒井 幸子
文化財課長 長島 栄一
仙台城史跡調査室長 鈴木 隆
主任 齋藤 俊義
主任 加藤 智仁
主事 須貝 慎吾
主事 佐藤 恒介
【文化観光局】
観光課長 栗原 怜
【建設局】
公園整備担当課長 鈴木 江美子

(報道機関) 1社1名
- IV. 傍聴人 3名

※会議録の署名について委員長は馬場委員を指名

V. 概要及び議事内容等

1 開会

2 議事

(1) 中間案に関するパブリックコメントの実施結果について

資料 1、2 に基づき事務局より説明。

馬場委員： 庁内の他の部署との連携を進めていってほしいとの意見に対して、関係部局との連携を十分に行っていくと回答しているが、具体的な連携方法について記載はできないのか。

藤澤委員： パブリックコメントに対する回答はどこかに公表するのか。事業計画が終わる 10 年後に、改めて今回のパブリックコメントの内容を振り替えることのできるようにした方が良い。

筒井部長： パブリックコメントに関する市の要綱があるため、その要綱に従い市側の意見を添えて専用のホームページにて公表することを考えている。

山田委員： パブリックコメントの意見に対して、可能か不可能かという対応だけではなく、意見をどのように取り入れて、まちづくりにつなげていけるかということが大事だと思う。また、整備基本計画の中でどこまで実効性を高められるかということが大事ではないかと思う。

庄司委員： 大手門の復元に向けた調査等を市民と協力して行い、活用の機会も多く設けることで、仙台城跡の整備に興味を持ってもらえるきっかけになることを期待している。

今野委員： 大手門復元のスケジュールに対する意見への市の回答は、若い世代の方や仙台城に詳しくない方には理解しにくい。大手門の復元には時間がかかることを十分に説明した回答にし、多くの理解を得た方が良いと思う。

小齋委員： パブリックコメントでは、より多くの人の意見を取り込んで集約することが大事である。例えば、新聞にもパブリックコメントについて掲載するなどして、意見がさらに集まることに期待している。

稲葉委員： 3 点意見がある。1 点目は全ての意見が吸い上げられているのかということである。詳しい意見が多いようだが、それ以外の一般的な意見は無かったのか。そういった見識のない一般的な意見を出してもらえればより多彩な集約ができたのではないか。

2 点目は、仙台市が掲げるまちづくりの計画の中で、仙台城跡がどのような役割をもっているのか本文内に記載することである。そうすることで、歴史的建造物の復元等の意味も市民に伝わりやすいのではないか。

3点目、パブリックコメントの意見では、公開活用のアイデアが多く、非常に良い意見が多かった。これらの意見を次の段階の整備委本計画で実行につなげていけるようにするべきである。

菊池委員： 4点感想がある。

1つ目は、整備基本計画中間案を読んでもらったうえで、具体的な提言を多数いただいたということが大きな収穫であるということ。中には審議会に出てこない課題や受け止めるべき議題等も挙げられており、具体的な指摘や的確な助言を踏まえて本文を修正することができる。

2つ目は、説明や表現が不十分であった箇所に対して指摘・意見をいただいたことである。例えば「政宗ビュー」は、審議会の中で共有してきたコンセプトであったが、中間案の中では唐突に記載されている。パブリックコメントに対する回答の中で「政宗ビュー」の考え方が書かれているため、同様の内容を計画本文内にも入れてほしい。

3つ目は、水系整備ゾーンに対する市民の関心が高いことが印象的だということ。自然を十分に保存、保全していくことが必要であり、まだ活用に至る段階ではないという意見があった一方で、市民協働のビオトープ空間の創出を急いでいいのではないかという提案もあった。どちらも重要であるため、史跡整備との折り合いをつけて自然の保存と活用をどのように図っていくかについても、これからの大きな課題にした方がよい。また、自然環境についての専門家を委員会の中に取り込まないといけないという意見もあったため今後の委員会では検討してほしい。

4つ目は、大手門の復元に時間がかかることについてである。明治23年の改修時の姿は、江戸期の姿を踏襲したものではない可能性が指摘されているため、明治23年の修復時の記録等を調べる必要がある。また歴史的建造物の復元を行うためには各種調査が必要となることを市民や県民に説明する必要がある。何十年後かの完成に向けて1年1年記録等を積み上げていく、その復元へのルールがいかに関面白いかということを発信するための企画を文化財課で行ってもらえることに期待している。

委員長： 修景整備を短期整備の中で行うことになっているが、短期で実施することで悪い影響を与える場合があるため、植生の保全は時間を長くかけた方がよい場合もある。パース図に描かれたものが、市民1人1人が思い描く仙台城の整備に割と近かったため、修景に関する計画に対してはあまり反対意見等なく、概ね賛同いただいたのではないかとはいえるが、これから植生調査や植生保全管理計画の策定など、具体像が計画から読み取れなかったため意見が出なかったという見方もできる。反対意見が

ないから概ね計画内容が認められたということではなく、事務局でもう少し留保をつけてほしい。

また、パブリックコメントの多さは、市民の関心の高さが表れている全国的に見ても例がない結果であると思う。

(2) 史跡仙台城跡整備基本計画（案）について

資料4に基づき事務局より説明。

藤澤委員： 81 ページの基本コースの一覧について、二の丸周遊コースと大手門登城コースを2つ合わせて藩政の中枢コースとし、階層的に分けているということは理解できる。しかし、築城期登城コースは巽門登城コース、本丸周遊コースは本丸周遊コースとなっており、1つのコースが違う名称で記載されている。混乱を防ぐため用語の整理を検討した方が良い。藩政の中枢コースなどのまとまりをなくし、「二の丸周遊コース」「大手門登城コース」「巽門登城コース」「本丸周遊コース」の4つのコースを単体にしてしまえばすっきりすると思う。

長島課長： この部分は色々考えて悩んだところである。あまり時間はないが、用語の整理を検討させていただく。

筒井部長： 先ほど委員の方々からいただいた意見を踏まえて、3点ほど本文を直していきたいところがある。

1点目は、92 ページ以降の活用について書かれたところである。仙台城跡の活用を考えると、青葉山公園センターを拠点に活動しているガイドボランティアや市民団体、東北大学植物園、東北大学、実際に仙台城跡で植物や動物、歴史、その他色々な環境のことで活動しておられる方などと多様な連携ができる可能性がある。そのようなことを例えば 92 ページの最初のところで示していきたいと思う。

2点目は、48 ページのコンセプトにある「政宗ビュー」についてである。政宗が礎を築き、以降もあの場所から城下を眺めたという歴史的な背景を市民と共有してこれからの整備を進めていきたいという気持ちを込めて、今回計画のために「政宗ビュー」という造語を作った。このことをパブリックコメントの回答にも記載したが、同様の内容を本文にも書き足していきたい。

3点目は、99 ページにある大手門の調査のことである。復元建物を建ててしまえばその場所の発掘調査はもうできないため、大手門の歴史を明らかにした上で復元する必要がある。大手門の調査に何が重要なのか

は本文には全く書かれていないため、どのような調査が必要なのかということ。

長島課長： 補足する。現時点で大手門周辺の調査と市が言うのは、大手門本体の調査のことである。建てた時期や、建て替えの回数等をはっきりさせない限り大手門は建てられないと考える。また、大手門の周辺についても把握しないと整備内容が決められないと思う。他にも二の丸との接続の状態がどうなっているのか、中島池との接続との間でどのような施設があるのかといった調査もしなければいけない。発掘調査の指導委員会で、調査期間や調査場所等を協議させていただくことになるため、今の段階では調査項目だけでも入れることを検討していきたい。

委員長： 基礎的な史料調査が終わったら、早めに文化庁の復元検討委員会に諮るべきである。そのやり取りだけで時間が経ってしまう。そのような行政手続きは市民には分からないため、書ける範囲で書いて提示をしなければ、疑問や不信感が出てくると思う。

稲葉委員： 資料2のNo.5に「各市民活動団体も仙台城跡で水質・植生の調査研究を行っており、多彩な活動があることを明記すべきである。」というコメントがあるが、96ページの管理・運営体制の図の市民活動団体のところにはガイド活動とまちあるき活動しか書いていないため、水質・植生の調査団体も入れてはどうか。

筒井部長： 入れる方向で検討する。

委員長： あまり書きすぎると漏れが出て問題になるため、どこまで載せるのかを検討していただきたい。

(3) その他について

鈴木室長： 今後のスケジュールについてご説明する。今回いただいたご意見を踏まえて修正を行った事務局案の確認については委員長と副委員長に一任という形で進めさせていただく。なお、誤字脱字等の内容の精査は事務局で行っていく。まとまった計画案については、委員の皆様にもメール等で送付させていただきたい。また、北野委員長より教育長に報告をしていただき、その後文化庁との協議を経て、3月下旬の教育委員会において計画を決定する予定である。

委員長： 今回の委員会で最後となるため、改めて最後に一言ずつお話をいただきたい。

稲葉委員： 色々な委員の方々とご一緒できたため、幅広い意見が出せたのではないかと考えている。先がまだある事業のため、自分なりにできることを

お手伝い出来たらと思う。

小齋委員： 市民の皆様からいただいたパブリックコメントの件数が多かったということは、市民の皆様が仙台城跡の計画に興味を持っているということである。整備事業が終わった後の姿を見ることを楽しみにしている。

今野委員： 色々皆様のご意見を伺ったり、歴史的なことを改めて色々学ばせていただいたりすることで自分自身の造詣も深まった感じがする。本当に感謝を申し上げたい。

庄司委員： この委員会に参加させていただき、大変勉強になったことに感謝申し上げます。

山田委員： このような機会がなければ、地元にいながら様々な知見に触れることはなかった。このような機会を与えていただき大変感謝している。保存活用計画や整備基本計画は作ったら終わりではなく、これからが本番だという気持ちを持ち続け、10年後、20年後に、このような経過があつてよかったと言われるような事業であつてほしいと思う。

また、途中経過も含めた情報公開を行い、保存だけではなく、観光面で市内外の方々に多く知ってもらう機会を作ることも大事である。さらに、教育的な側面からも子どもたちに残せる大切な財産として活用していけるのではないかと考えている。

今回で終わりではなく、引き続き計画を支援していきたいと思っている。

藤澤委員： 先ほど稲葉委員がおっしゃられた、仙台城跡に詳しくない方がどのように計画をとらえられたのだろうかというのは、非常に重要な視点だと思った。参考資料の最後に小学生と中学生のアンケートがある。仙台城の魅力でどのようなところが良かったかというところで、小学生も中学生も圧倒的に本丸跡から見た景色がきれいだと答えている。そのことを大事にし、子どもたちの心に刻まれる景色をより魅力あるものにしていきたいと思う。そのために、仙台城だけではなく、まちづくり全体に関わる問題として、仙台城を担当される教育委員会の方や市役所全体の色々な分野の方々には、この景観を守っていくということをぜひ取り上げていただきたい。

また、仙台城の整備を考えると、大手門の復元というのは一番の見どころだと思う。それを短期間で行うのはもったいないため、調査過程をぜひ市民に公開することで参画していただき、時間をかけて完成まで持っていく気構えで行っていただきたいと思う。

委員長： 参考資料の最後にあるアンケートを見たときに、小学生、中学生の5

0%の人が仙台市の歴史に興味がないということに、衝撃を受けた。この結果が一般的であると思った一方で、まだまだ若い世代にその歴史や誇りというのが十分に知れ渡っていないことが分かるデータであると思う。震災で城跡が大きく被災した福島県の白河市では、市内の全ての小学生に地歴学習として毎年必ず城跡に来てもらい、色々調べた上で壁新聞を作る等してもらっている。白河市と比較してみても、仙台市内には関心の高い人達もいるかもしれないが、学校教育の部分で活用が足りない部分があるのではないかと大きく感じた。

また、保存活用計画がマスタープラン、整備基本計画がアクションプランという位置付けになることから考えると、アクションプランとしてはまだ内容に不足があると思う。景観計画やサイン計画とこれから具体化していかなければならない課題はとても多いと思う。事務局は来年度以降これらの個別計画を行っていく上で苦労があると思う。我々委員もその点でできる限り助言ができればと思っている。

さらに、通常委員の構成は整備基本計画の委員会では自然系や都市計画系や考古学といった専門家が多い。今回の委員会で多彩な分野に携わる方が保存活用計画や整備基本計画作りに3年余り携わってきたことは大きな成果である。幅広い分野で活躍する委員の皆様のご見識やお立場で3年余り行ってきたことを、このような会議の場で色々な議論等を通してお伝えいただくことが、整備基本計画を幅広い層の人たちと一緒に進めていく大きな財産になると考える。これからこのような仙台市としてのやり方をぜひ広めていただければと思う。

関口主幹： 各委員の皆様からの最後の一言にもあったが、これから具体的な整備になっていくところである。またアンケートで非常に衝撃的だったが、仙台城跡に行ったことがないという小中学生がいらっしゃるということである。今後、仙台市と協力しながらこのような小中学生がいなくなるよう努力をしていきたいと思う。今後とも委員の皆様にはこの委員会に限らず色々なところでご指導いただきたいので、よろしく願い申し上げます。

3 閉会

長島課長： それでは、以上を持ち第14回仙台城跡保存活用計画等検討委員会を閉会とする。

(2:09:30)